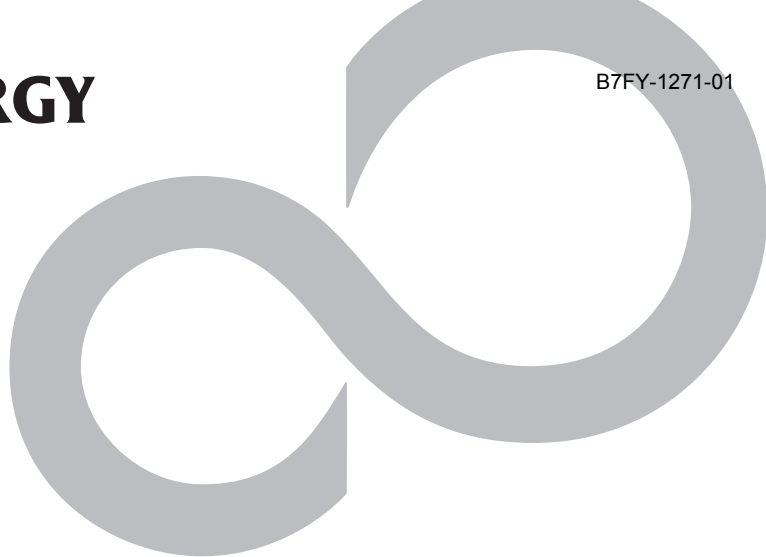


PRIMERGY

B7FY-1271-01



取扱説明書

内蔵 DDS4 ユニット
(PG-DT402/PGBDT402)

はじめに

このたびは、弊社の内蔵 DDS4 ユニット（PG-DT402/PGBDT402）をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

本書は、内蔵 DDS4 ユニット（以降、本製品）の取り扱いの基本的なことからについて説明しています。ご使用になる前に本書およびサーバ本体に添付の「PRIMERGY ドキュメント&ツール CD」内の『ユーザーズガイド』をよくお読みになり、正しい取り扱いをされますようお願いいたします。

2003 年 10 月

安全にお使いいただくために

本書には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に、本書を熟読してください。特に、本書の「安全上のご注意」をよくお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。また本書は、本製品の使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

本製品のハイセイフティ用途での使用について



本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。




本書の表記

■ 警告表示

本書ではいろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



 警告	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
 注意	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使用しています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■ 本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
 重要	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
 POINT	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■ 製品の呼び方

本文中の製品名称を次のように略して表記します。

製品名称	本文中の表記
Microsoft® Windows Server™ 2003, Standard Edition	Windows 2003
Microsoft® Windows Server™ 2003, Enterprise Edition	
Microsoft® Windows® 2000 Server	Windows 2000
Microsoft® Windows NT® Server Operating System Version 4.0	Windows NT

安全上のご注意

本製品を安全にお使いいただくために、以降の記述内容を必ずお守りください。

■ 本製品の取り扱いについて

⚠ 警告

窒息



- ・ 梱包に使用しているビニール袋はお子様がお口に入れたり、かぶって遊んだりしないよう、ご注意ください。
窒息の原因となります。

感電



- ・ 異物（水・金属片・液体など）が装置の内部に入った場合は、ただちにサーバ本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから取り外してください。その後、弊社担当保守員にご連絡ください。
そのまま使用すると、感電・火災の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

感電



- ・ 開口部（通風孔など）から内部に金属類や燃えやすいものなどの異物を差し込んだり、落としたりしないでください。
感電・火災の原因となります。

感電



- ・ 装置をお客様自身で改造しないでください。
感電・火災の原因となります。

⚠ 注意



- ・ 本製品を分解したり、解体したりしないでください。
- ・ 本製品は以下の環境で動作させたり、保管したりしないでください。
 - 極端な低温環境
 - 極端な高温／多湿環境
 - 温湿度変化の激しい環境
 - 磁気の影響を受けやすい場所
 - 衝撃や振動の加わる場所
 - ゴミやほこり（煙草の煙、土埃、排気ガスなど）の多い環境
 - 直射日光のあたる場所
 - 発熱器具のそば
- ・ 寒い場所から暖かい場所に移動したり、室温を急に上げたりした直後は、内部が結露する場合がありますので、お使いにならないでください。結露したままお使いになると、本製品やデータカセットを損傷することがあります。大きな温度変化があった時は、1 時間以上待ってから電源を入れてください。
- ・ サーバ本体の電源を切るときは、データカセットを取り出してください。データカセットを装置に挿入すると、磁気テープの記録面が露出されます。本状態が長く続くと、記録面へのほこりの付着やキズ発生の可能性があり、データカセットが永久的に使用できなくなることがあります。
- ・ ご使用にならない場合は、本製品からデータカセットを取り出してください。
- ・ データカセットを入れたまま本製品を持ち運ばないでください。
- ・ データカセットを挿入時、無理に押し込まないでください。
- ・ 内部に液体や金属など異物が入った状態で使用しないでください。何か異物が入った場合は、お買い求めの販売店または弊社担当保守員にご相談ください。
- ・ 本製品前面の汚れは、柔らかい布でからぶきするか、布に水または中性洗剤を含ませて、軽くふいてください。ベンジンやシンナーなど揮発性のものは避けてください。
- ・ サーバ本体の扉を閉めた状態でソフトウェア上からの媒体排出は行わないでください。

梱包物の確認

お使いになる前に、次のものが梱包されていることをお確かめください。
万一足りないものがございましたら、担当営業員または担当保守員までご連絡ください。

- 内蔵 DDS4 ユニット
- クリーニングカセット
- 保証書
- 取扱説明書
- DAT ユニット取扱い注意シート（DAT ユニートを正しくご使用いただくために）
* 訂正）本シート上に記載のクリーニング使用可能回数について誤記があり、50 回→25 回に訂正します。

Microsoft、Windows、Windows NT、Windows Server は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
本取扱説明書に記載されている会社名、製品名は、各社の登録商標または商標です。

All Rights Reserved, Copyright® FUJITSU LIMITED 2003

目次

はじめに	2
本書の表記	3
安全上のご注意	4
梱包物の確認	6
1 インストール	8
1.1 ジャンパの設定について	9
2 各部の名称と働き	10
3 データカセットについて	12
3.1 データカセットの操作	12
3.2 データカセットについて	13
4 クリーニングについて	14
5 バックアップ運用上の注意	15
6 仕様	17

1 インストール

この章では、本製品のインストールについて説明しています。
次の順番に本製品をインストールする必要があります。

1 ジャンパの設定を行ってください。

「1.1 ジャンパの設定について」(→ P.9)

2 本製品をサーバ本体に搭載してください。

サーバ本体に添付の「ドキュメント&ツール CD」内の『ユーザーズガイド』を参照してください。

3 SCSI ケーブル・電源ケーブルを接続してください。

サーバ本体に添付の「ドキュメント&ツール CD」内の『ユーザーズガイド』を参照してください。

4 必要なソフトウェアをインストールしてください。

1.1 ジャンパの設定について

サーバ本体に本装置を内蔵する場合、SCSI-ID 番号の設定が必要になります。

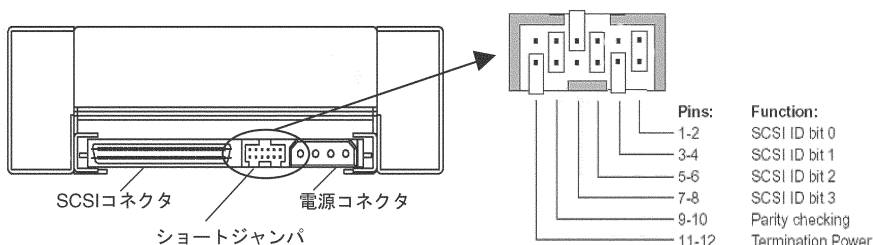
SCSI-ID 番号は、本装置背面（下図）のショートジャンパで設定し、以下の表のように設定することができます。

ID Bits 0、1、2、3 以外のジャンパはご購入時の設定のままとし、変更しないでください。

ID Bits 3	ID Bits 2	ID Bits 1	ID Bits 0	SCSI-ID 番号
オープン	オープン	オープン	オープン	0
オープン	オープン	オープン	ショート	1
オープン	オープン	ショート	オープン	2
オープン	オープン	ショート	ショート	3
オープン	ショート	オープン	オープン	4
オープン	ショート	オープン	ショート	5 *
オープン	ショート	ショート	オープン	6
オープン	ショート	ショート	ショート	7
ショート	オープン	オープン	オープン	8
ショート	オープン	オープン	ショート	9
ショート	オープン	ショート	オープン	10
ショート	オープン	ショート	ショート	11
ショート	ショート	オープン	オープン	12
ショート	ショート	オープン	ショート	13
ショート	ショート	ショート	オープン	14
ショート	ショート	ショート	ショート	15

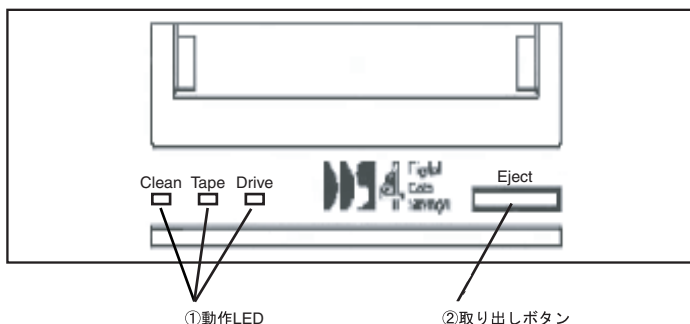
* ご購入時の設定

■ ご購入時の設定



2 各部の名称と働き

この章では、本製品の各部の名称と働きについて説明しています。



■ 動作 LED

Clean : 装置のクリーニング要求を示す LED です。

Tape : データカセットが装置内に挿入されていることを示す LED です。

Drive : 装置が動作中であることを示す LED です。

LED の表示状態とその装置状態を以下に示します。

装置の状態		LED 表示状態		
		Clean (緑)	Tape (緑)	Drive (橙)
電源投入	装置自己診断中	*	*	*
	テープ未挿入	●	●	●
テープ挿入	挿入中	●	○	○
	挿入完了	●	○	●
テープ排出	排出中	●	○	○ or ●
	排出完了	●	●	●
テープ動作中	書込/読出/走行中	●	○	○
クリーニング	クリーニング要求	* or ○	—	—
	クリーニング中	●	○	○
	クリーニングカセット交換要求	**	○	●
エラー発生	テープ系エラー発生	—	**	—
	装置故障	—	—	**

● : 消灯

○ : 点灯

— : 表示状態は無関係

* : Slow 点滅 (500ms 間隔)

** : Fast 点滅 (250ms 間隔)

重要

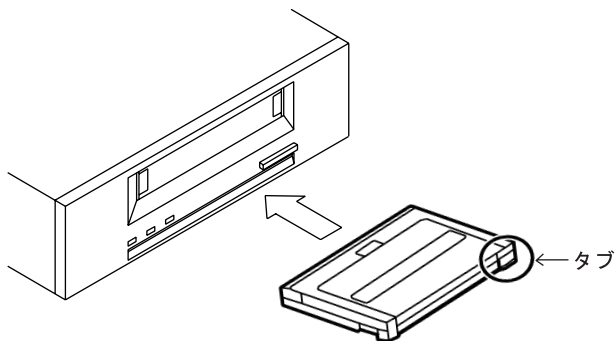
- ▶ ヘッドが汚れている場合や、データカセットが消耗している場合は、挿入および排出に数分間要することがありますが、装置の異常ではありません。クリーニングを行ってください。再度、同一現象が発生する場合、データカセットの交換をお願いします。

■ 取り出しボタン

データカセットを取り出す時に本ボタンを使用します。
ボタンを押ししばらくすると、自動的にカセットが排出されます。

3 データカセットについて

3.1 データカセットの操作



■ セット方法

データカセットのラベル貼り付け面を上に向け、タブが手前になるようにしてドライブにまっすぐ入れます。

POINT

- ▶ データカセットをセットした直後にバックアップまたはリストア等の操作を行う場合は、“Drive” LED が消灯してから行ってください。

■ 取り出し方法

「■ 取り出しボタン」(→ P.11) を参照してください。

3.2 データカセットについて

この章では、本製品で使用できるデータカセットについて説明しています。本製品には、以下のデータカセットをお使いください。

品名	商品番号	記憶容量	出荷単位
データカセット DAT CT20G	0121190	20/40GB	5 巻
データカセット DAT CT1200	0121180	12/24GB	5 巻
データカセット DAT CT4000	0121160	4/8GB	5 巻
データカセット DAT CT2000 ^(*1)	0121150	2/4GB	5 巻

*1)：復元（リード）のみ可能であり、退避（ライト）は不可です。

■ 使用上の注意

・ 使用カセット

上記以外のデータカセットでの退避／復元は、装置または媒体に悪影響を及ぼす可能性がありますので、使用しないでください。

・ 使用環境

「6 仕様」(→ P.17)に記載の温度／湿度条件のもと、「安全上のご注意」(→ P.4)をご確認の上、ご使用ください。

・ 保管環境

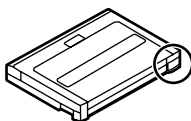
以下の環境のもと、専用ケースに入れ、「安全上のご注意」(→ P.4)をご確認の上、保管してください。

温度：5～32℃

湿度：20～60%（結露しない場所）

・ 書き込み保護

データカセットのデータを保護（ライトプロテクト）するときは、下図（丸囲み）のタブをスライドさせ、オープンにしてください。



・ データカセットの寿命

データカセットは消耗品です。消耗した状態で使い続けると、ヘッドに悪影響を及ぼし、読み書きができなくなったり、装置が故障する原因となります。

お使いになる環境（温度、湿度、ほこりなど）や装置の動作状況により異なりますが、75回の使用または使用開始から1年経過の早い方を目安に、定期的に交換してください。

4 クリーニングについて

この章では、本製品のクリーニングについて説明しています。
本製品には以下のクリーニングカセットをお使いください。

品名	商品番号	出荷単位
クリーニングカセット DAT-N	0121170	1 巻

・ クリーニング方法

クリーニングカセットを挿入すると、自動的にクリーニング動作が行われ、約 20 秒後に、自動的に排出されます。

クリーニング中にサーバの電源を切らないでください。また、サーバの起動中・シャットダウン中にはクリーニングを行わないでください。

・ クリーニングの必要性

本製品は、磁気ヘッドによるデータの読み書きを行っており、ほこりやゴミあるいはデータカセットのテープから発生する磁性粉にてヘッドが汚れていると、以下の悪影響を及ぼすことになります。クリーニングカセットによる定期的なクリーニングを必ず行ってください。

- データの読み書きが正常に行われません。
ヘッドに汚れがこびり付くと、永久的に使用できなくなります。
- データカセットの磁気テープの記録面への汚れの付着、傷の発生により、永久的に使用できなくなります。
- データカセットの寿命（使用回数）が減少します。

・ 定期的なクリーニング

以下の場合に、必ずクリーニングを行ってください。

- 本製品の使用 25 時間ごとに 1 回
- 一般的には、「毎週月曜の朝」などの、定期的なクリーニングをお勧めします。
- 本製品が未使用の場合でも、1 ヶ月に 1 回
- 新品のデータカセット挿入前
- 本製品の“Clean” LED 点灯等

・ クリーニングカセットの交換

クリーニングカセットを本製品でのみ使用した場合、1 巻あたりの使用可能回数は約 25 回です。以下の場合にも、新しいクリーニングカセットに交換してください。

- クリーニング後も“Clean” LED が高速点滅し、1 分経っても自動排出されない場合
- 右側のリールにすべてテープが巻き取られている場合（再利用はできません。）

5 バックアップ運用上の注意

この章では、本製品のバックアップ運用上の注意を示しています。

- データの圧縮率は、目安として2倍程度としておりますが、データの内容により圧縮率は変化します。ソフトウェアにより圧縮処理されたデータでは、本製品による圧縮効果は期待できません。
- 以下の要因により、バックアップ性能が変化します。
 - ご使用されるデータカセットの記録面の状態（消耗、汚れなど）
 - 本製品のヘッドの汚れ状態
 - データの圧縮率
 - サーバの負荷状況

なお、本製品の性能を最大に発揮するためには、データカセット DAT CT20G（商品番号：0121190）またはデータカセット DAT CT12000（商品番号：0121180）を使用する必要があります。

- 同一データカセット1巻によるバックアップ運用では、バックアップに失敗した場合、全データが失われる危険があります。複数のデータカセットによるバックアップ運用を行うことにより、トラブル発生時の被害を最小限にすることができます。
例) 曜日ごとのデータカセットによるバックアップ運用をお勧めします。
- Windows NT / Windows 2000 の各 Windows Backup をご使用になる場合、サーバ本体に添付されている ServerStart CD をご使用し、以下の手順でドライバをインストールしてください。

なお、Windows 2003 では、OS 標準のドライバでご使用になれます。

[Windows NT の場合]

- Administrator 権限で Windows NT にログオンします。
- 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
- 「テープデバイス」のアイコンをダブルクリックします。
- 「ドライバー一覧の作成中」のあと、「ドライバのインストール」の画面が表示されるので、「ディスク使用」をクリックします。
- サーバ本体に添付の ServerStart CD を CD-ROM ドライブに入れたあと、「参照」をクリックします。
ServerStart Launcher が起動したら「キャンセル」をクリックして終了させます。
- CD-ROM の ¥Drivers¥Tape¥datasea¥Nt フォルダの「oemsetup.inf」をダブルクリックし、「OK」をクリックします。
- インストールするドライバの選択画面になるので「Seagate DAT(stdat4.sys)」をダブルクリックします。
「新しい SCSI テープデバイスが見つかりました」というメッセージが表示されません。
- 「OK」ボタンをクリックします。
「SEAGATE DAT 9SP40-000（ドライバが読み込まれました。）」と表示されます。
- 「OK」ボタンをクリックします。
- ServerStart の CD-ROM を取り出し、サーバを再起動します。

[Windows 2000 の場合]

1. Administrator 権限で Windows 2000 にログオンします。
2. 「スタート」ボタン→「設定」→「コントロールパネル」の順にクリックします。
3. 「システム」のアイコンをダブルクリックします。
4. 「ハードウェア」のタブをクリックし、「デバイスマネージャ」をクリックします。
5. 「その他のデバイス」の「? SEAGATE DAT 9SP40-000 SCSI Sequential Device」をダブルクリックします。
6. 「ドライバ」のタブをクリックし、「ドライバの更新」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」というメッセージが表示されます。
7. 「次へ」をクリックします。
8. 「デバイスに最適なドライバを検索する」をクリックし、「次へ」をクリックします。
9. サーバ本体に添付の ServerStart CD を CD-ROM ドライブに入れたあと、「場所を指定」にチェックを入れて「次へ」をクリックします。
ServerStart Launcher が起動したら「キャンセル」をクリックして終了させます。
10. 「参照」をクリックし、CD-ROM の ¥DRIVERS¥Tape¥datsea¥W2K フォルダの「stdatw2k.inf」を選択し「OK」をクリックします。
「デバイスドライバのアップグレードウィザードの開始」というメッセージが表示されます。
11. 「完了」をクリックし、「閉じる」をクリックします。
12. 「デバイスマネージャ」の「テープドライブ」に「SEAGATE DAT 9SP40-000 SCSI Sequential Device」が表示されていることを確認します。
13. ServerStart の CD-ROM を取り出し、サーバを再起動します。

6 仕様

この章では、本製品の仕様を示しています。

品名	内蔵 DDS4 ユニット	
型名	PG-DT402 / PGBDT402	
データ記憶容量 (非圧縮)	20GB	
データ転送速度 (非圧縮)	最大 2.75MB/s	
データ・フォーマット	DDS、DDS-2、DDS-3、DDS-4	
インタフェース	Ultra 2 Wide SCSI (LVD/SE)	
クリーニング周期	25 時間使用ごと または 1 ヶ月ごと	
寸法 [mm] (W × D × H)	146 × 181 × 41.3	
質量 [kg]	0.81	
消費電力 [W]	最大 6.9	
発熱量 [kJ/h]	最大 24.8	
環境条件 (結露しないこと)	温度	稼働時：10 ~ 35 °C 休止時：5 ~ 40 °C
	湿度	稼働時：20 ~ 80 % 休止時：10 ~ 90 %
最高湿球温度	28 °C	

Memo

PRIMERGY

内蔵 DDS4 ユニット
(PG-DT402/PGBDT402)

取扱説明書

B7FY-1271-01-00

発行日 2003年10月
発行責任 富士通株式会社

Printed in Japan

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。
- 無断転載を禁じます。
- 落丁、乱丁本は、お取り替えいたします。



このマニュアルは再生紙を使用しています。

